

令和6年度第1回習志野市子ども・子育て会議 会議録

1 日 時 令和6年7月2日（火）午後5時から午後7時9分

2 開催場所 市庁舎5階委員会室

3 出席者（敬称略）

【会 長】 千葉経済大学短期大学部 上村 麻郁

【副会長】 淑徳大学看護栄養学部 鈴木 茜

【委 員】 千葉大学教育学部 真鍋 健

習志野市立こども園 阿部 千春

習志野市私立幼稚園・認定こども園協会（事業者代表）飯塚 源太

私立保育園 大塚 朋子

習志野市立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 若澤 竜馬

習志野市学童保育連絡協議会 稲垣 涼子

習志野市PTA連絡協議会 菊池 美加

習志野市私立幼稚園・認定こども園協会（保護者代表）関根 洋幸

公募委員 横山 智子

習志野市小中学校長会 東 秀行

習志野市民生委員・児童委員協議会 川崎 雅美

＜欠席委員2名＞

【職 員】 こども部 部長 佐々木 博文、次長 相澤 慶一

こども保育課 課長 志摩 豊、主幹 鶴岡 佑介

主幹 松田 裕美、係長 辻村 純子

係長 田中 秀俊

子育て支援課 課長 奥井 菜摘子、主幹 堂前 幸子

児童育成課 課長 渡辺 雅史、主幹 上野 智子

ひまわり発達相談センター 所長 内村 幸輔

健康支援課 主幹 伊藤 千佳子

指導課 課長 利根川 賢、係長 春名 拓也

社会教育課 課長 越川 智子、係長 小倉 康裕

【事務局】 こども政策課 課長 奥山 昭子、主幹 新井 理香

係長 石橋 寛、係長 谷川 宗平、

主査 清水 隆之、主任主事 武本 希

【傍聴人】 1名

4 議題

第1 会議の公開

第2 会議録の作成等

第3 会議録署名委員の指名

第4 協議

(1) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和5年度実績評価について

(2) 子ども・若者・子育て支援等に係る実態調査の調査結果について

(3) (仮称) 習志野市こども計画の施策体系(案)について

第5 その他(事務連絡等)

5 会議資料

資料1 習志野市子ども・子育て会議委員名簿

資料2 令和5年度教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況 概要版

資料3 令和5年度教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況

資料4 習志野市子ども・子育て支援事業計画 実績表【令和5年度】

資料5 習志野市子ども・子育て支援事業計画に定めた重点事業に係る評価指標の状況

資料6 子ども・若者・子育て支援等に係る実態調査の集計結果及び子ども・若者の意見聴取について

資料7-1 習志野市子ども・若者・子育て支援等に係る実態調査結果報告書(案)

【子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童保護者)】

【子育て支援に関するニーズ調査(就学児童保護者)】

【子ども・若者の生活等に関する実態調査(高校生相当~29歳)】

資料7-2 習志野市子ども・若者・子育て支援等に係る実態調査単純集計結果表

【子ども・若者の生活等に関する実態調査(小学1~3年)】

【子ども・若者の生活等に関する実態調査(小学4~中学3年)】

【子ども・若者の生活等に関する実態調査(小5、中2保護者)】

資料8 次期計画施策体系(案)

6 議事内容

第1 会議の公開

原則公開としたうえで、内容により公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度、議決することに決定した。

第2 会議録の作成等

要点筆記とし、会議名・開催日時・開催場所・出席者氏名・審議事項・会議内容・発言委員名及び所管課名を記載のうえ、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公表することを決定した。

第3 会議録署名委員の指名

会議録署名委員に、若澤 竜馬 委員及び稲垣 涼子 委員を指名し、決定した。

第4 協議

(1) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和5年度実績評価について
【事務局より、資料2～資料5に基づき説明】

【上村 麻郁 会長】

ただいまの説明に対して意見や質問はあるか。

【菊池 美加 委員】

資料4の令和5年度実績表について、2点質問したい。

1点目、各事業における「令和5年度の事業達成度」がほぼAまたはB評価であり、概ね達成できたことがわかる一方、C評価が2事業、D評価が1事業あった。

D評価の事業は「未実施」であり理由がわかるが、例えば、70ページ、「59 公民館の託児付き成人講座の実施」はC評価となっているが、実施回数が17回、事業対象者からの意見・感想等を見ても、もっと評価が高くてよいのではないかとC評価とした理由をお聞きしたい。

2点目、37ページ、「31 防災力の向上」も同じくC評価であるが、防災力は、いつ起こるかわからない災害に備えるものだと思うので、緊急度の高いものがC評価であることに少し危機感を感じる。

この事業計画自体に多くの事業があるので、重要かつ緊急な事業を分けているのか。事業計画としては、そこを一番重点的に実施しなければいけないところだと思うので、重要度・緊急度と関連した評価指標のマトリックスがあるのかお聞きしたい。

【社会教育課長 越川】

公民館の託児付き成人講座については、託児を設けることで、継続的に公民館を利用していただきたいところではあるが、現状、講座単発での利用にとどまっており、子育て世帯がその後、継続して公民館を利用されていないこと、また、公民館としてはもっと多くの講座を実施したいとの思いから、C評価としている。

【こども政策課長 奥山】

「防災力の向上」の担当課は、危機管理課と保健体育安全課であり、本日は出席しておらず、詳細な理由をお答えできないため、評価方法について説明する。

各実績表の上部に「令和5年度事業目標」、「令和5年度に実施した事業内容」について、中部に「事業実施後の課題」についての記載がある。事業達成度は担当課による自己評価であり、事業目標に対する実施内容・成果・課題を踏まえ、達成できればA評価。達成できなかった部分があるが、達成できた部分のほうが多ければB評価。達成できた部分があるが、達成できなかった部分のほうが多ければC評価となる。

「防災力の向上」においても、担当課の自己評価によりC評価としている。

【菊池 美加 委員】

自己評価が厳しいほうが、今後の目標にもなると思うし、こんなに多くの事業を進めているということが、こどもがいる身としては、本当に感謝の一言に尽きる。

【飯塚 源太 委員】

資料4の実績表には事業費決算額があり、金額が記載されているが、どのように見たらいいのか。金額が記載されていない事業もあり、金額が記載されていても、習志野市単独の財源ではないように見受けられる事業もある。

【こども政策課係長 石橋】

事業費決算額は、その記載事業にかかった経費を記載しており、国の補助金などの収入部分については記載していない。あくまで支出金額のみの整理をしているため、国等の補助があったかということは、この事業費決算額では把握できない。

また、金額を記載していない事業もある。これは、市の予算上、各担当課で事務的な消耗品等を購入するための事務費があるが、特別な経費をかけずに、この事務費と人件費のみで実施している事業などの場合は、決算額を記載していない。

【飯塚 源太 委員】

事業費決算額に金額が記載されていない事業は、創意工夫やマンパワーによって、特別な経費をかけないで実施したという見方でよいということか。

【こども政策課係長 石橋】

お見込みのとおりである。

【上村 麻郁 会長】

その他に意見や質疑はあるか。

【一同】

なし

【上村 麻郁 会長】

それでは、ただいまの協議を振り返ると次のような意見・質疑があった。

まず、「公民館の託児付き成人講座」と「防災力の向上」の事業達成度について、事業計画全体でA評価・B評価が多い中、C評価であったことに対する質問であった。こちらは担当課の自己評価との説明があったが、それが伝わるような記載方法にするといいと思う。

次に、事業費決算額の見方に関する質問であったが、事業経費のみを掲載しているとの説明であった。経費が未記載の事業は、特別な決算がなく、他の経費等で賄っているという理解でよいか。例えば、58ページの「48 小児救急医療体制の整備、充実」にも事業費決算額の記載はないが、特別な経費がかからない取り組みをしているということによいか。

【健康支援課主幹 伊藤】

小児救急医療体制については、休日・夜間の急病時の受診方法の周知方法の充実を図るもので、この周知のみの事業予算はない。

【上村 麻郁 会長】

それでは、今後においても、創意工夫しながら事業を実施していただきたい。

(2) 子ども・若者・子育て支援等に係る実態調査の調査結果について

【事務局より、資料6～資料7－2に基づき説明】

【上村 麻郁 会長】

ただいまの説明に対して意見や質問はあるか。

【東 秀行 委員】

質問ではないが、資料6の調査結果について、学校現場の状況を説明したい。小・中学生を対象とした調査では、3月中のWeb回答であったが、実は2月の終わりにから3月にかけて、次年度に向けて、タブレットを点検・調整のため回収する時期となっている。前任校でも、6年生のタブレットを次年度の1年生に貸与するために、回収しており、6年生の児童の手元にない状態であった。

自宅で実施するよう声をかけたが、自宅ではなかなか回答できなかったのではないかと。回収率が極端に下がった理由は、Web回答がよくないというわけではない

と考えるので、今後とも時期を見て、効果的に実施していただければと思う。

【こども政策課長 奥山】

今回の調査については、小学校・中学校は全数調査ということで、各小学校・中学校に多大な協力をいただき、実施することができたが、こども大綱を勘案した調査とするため、12月末のこども大綱策定後から立て込んだ作業での実施となってしまった。

東委員がご指摘のとおり、卒業生のタブレット端末回収等により、回収率が下がった事実はある。回収率が高い小学校下学年については、先生方が配慮してくださって授業中に実施していただいたり、自宅でも保護者が支援しながら回答いただいた家庭もあったのではないかな。そのようなところでも数値に差が出たのではないかと考える。

【稲垣 涼子 委員】

アンケート調査について、以前の会議で説明を聞いたときは、小学校下学年には少し難しいのではと思ったが、自分のこどもはひとりで、スマートフォンから回答していたので、意外とわかりやすい回答方法だったのかと改めて思った。それが回答率に繋がっている部分もあると思う。

質問としては、今後の予定についてお聞きしたい。こどもと直接対面しての意見交換については、次回会議に改めて報告すると説明があったが、子ども議会は、市長への質問を通してということで、相手が市長になるかと思うが、その他の場所については、誰が話を聴きに赴くのか、また何回実施するのか、現時点でのイメージを教えてください。

【こども政策課長 奥山】

まず、子ども議会は7月23日に開催する予定である。こちらは教育委員会が所管しており、各中学校から2名ずつ、計14名の生徒が子ども議員として、市長へ質問する。

次に、子ども食堂については、子ども食堂の活動日に、こども政策課職員が赴き、直接意見等を伺う予定である。現在の子ども食堂では、新型コロナウイルス等の影響で、食事を持ち帰る親子もまだ多いが、その場で食事をする親子も15人程度いると伺っている。その方々に意見等を伺いたいと考えている。

次に、地域NPO法人については、10人から20人程度のこどもが参加するイベントの企画会議に、こども政策課職員が参加させてもらい意見等を伺う予定である。

【社会教育課長 越川】

二十歳を祝う集い実行委員会については、現在、委員の募集を行っており、7月

3 1 日に第 1 回会議を開催したいと考えている。意見等は社会教育課職員が伺う。

【菊池 美加 委員】

1 点目、資料 6 裏面の今後の予定にある「子ども議会」は、前回会議で要望しており、実現していただいたことが本当にうれしい。市のホームページでも、日時と参加者が掲載されていたが、市制施行 70 周年記念事業としてあった。千葉市は毎年実施しているので、今回の実施を経て、毎年実施できるよう検討いただきたい。

2 点目、実態調査の集計結果について、全体的に回収率が低いことが気になっていたが、先ほどの東委員のお話で、腑に落ちたところである。また、この膨大なデータを見たら、傾向を知る基礎データとしては問題ないこともわかった。

市 P T A 連絡協議会においても、役員や会長会などの各会議体で、アンケートへの回答をお願いしていたが、なかなか回答が伸びなかったことに、少し反省もしている。例えば、資料 7-1、Ⅲ. 調査結果（就学児童）の 2～3 ページに、小学校区・中学校区ごとの割合が記載してあるが、在校生が少ない学校は、回答率が高くても全体の割合では低くなってしまふ。各学校での回収率があれば、どの学校の回答者が少ないかが一目瞭然で、各 P T A の会長にも働きかけることができるため、各学校の回収率をわかるようにしていただきたい。

【こども政策課係長 石橋】

まず、子ども議会の通年実施については、今回、こども計画では、こどもの意見の反映にスポットライトが当たっている。子ども議会も含め、こどもの意見をどのように施策に反映させていくかは、次回会議以降に提案する事業の中で、検討させていただきたい。

次に、資料 7-1、Ⅲ. 調査結果（就学児童）については、就学児童の保護者を対象としたアンケート調査であり、こども自身を対象とした調査では、回答したこどもが特定できないよう、学校名の質問はない。鷺沼、津田沼といったお住まいの地域のみを聞いているため、各小・中学校における正確な回収率は算出できない質問構成となっている。

【真鍋 健 委員】

1 点目、資料 7-1、Ⅳ. 調査結果（高校生相当年齢～29 歳）について、量が嵩むため報告書への記載は不要だと思うが、男女の違いによる回答差が気になる。男女ならではのニーズが反映されることもあると思ったので、悩みや結婚・こどもを持つことに対する意識など、男女別の結果がどうであったのかを伺いたい。

2 点目、資料 7-1、Ⅱ. 調査結果（就学前児童）の 71 ページにある、「習志野市における子育ての環境や支援への満足度」については、Ⅱ. 就学前児童とⅢ. 就学児童それぞれにデータがあった。その満足度を選択した理由が、次の質問の「特に取り組むべきだと思うもの」で透けて見えると思うが、その質問に自由記述を設

定していたかを確認したい。

【こども政策課係長 石橋】

男女の違いによる回答差については、分量が多くなってしまうため、報告書への記載は難しいが、性別でクロス集計したい質問を提示いただければ、その結果を集計することは可能である。

他の委員におかれても、クロス集計したい項目があれば、同様に集計結果を提供できるため、会議後でも構わないので、事務局にお伝えいただきたい。

次に、「子育て支援策として特に取り組むべきだと思うもの」は選択肢の中から2つまで選んでもらう設問となっているが、習志野市の子育て支援策に対する自由記述の質問があり、そこでは非常に多くの意見をいただいている。

この自由記述の部分は、意見等の分類をするとともに、報告書への掲載に適切でない記載も一部あるため、精査しているところである。その作業が終わり次第報告するので、もうしばらくお待ちいただきたい。

【飯塚 源太 委員】

全体的に見て、経済的な理由で、不安に感じたり、実際に困っている、一步を踏み出せないといった意見が目立つ気がする。経済的な理由に対して、我々に何ができるのか。この会議で何を提言していくべきなのか、正直わからない。市が単独で減税しても効果は限定的である。

若者が先のことまで考えて学びたいと思っても、経済的な理由で諦めざるを得ないという意見が、特に身につまされ、つらいと思った。

【こども政策課長 奥山】

経済的な支援を求める意見は、今回調査の自由記述に非常に多くあり、ニーズが高い施策であることは、この調査でも判明したところである。

国においても児童手当を拡充したり、習志野市でも子どもの医療費等の助成対象を中学生から高校生相当まで引き上げたりなど、経済的な支援に繋がっている施策を実施している。

その子どもの医療費助成でも、自己負担額を無くして欲しいという意見もあり、これから計画を策定する中で、何をどこまでできるのか、また適切なのか検討する必要があると考えている。

【上村 麻郁 会長】

飯塚委員の意見のとおり、経済的支援は、どの自治体でも求められている。国が予算の使い方を本当に検討しないと、高齢者だけではなく、障がい者もこどもも生きにくい国になっていくので、我々が出来ることとすれば、この子ども・子育て会議で計画を立てるだけではなく、この様なアンケート結果が出たことを伝えていく

こと。それは小さな声かもしれないが、1つ1つの行政、立場で声を上げていくことはできると思う。

私が勤める大学の学生を見ても、6割ぐらいが奨学金を借りている。奨学金の種類が増えており、返済の必要がない給付型もあれば、今までのとおり月に1万円程度を20年ぐらいかけて返済していき、40代になってようやく返済が終わる奨学金もある。

学びたい志があっても学べない状況にある人や、社会情勢や経済状況の変化で親が突然リストラされたなど家計の急変により、学校を辞めざるをえない学生への手厚いケアが必要である一方で、親世代の経済的な観点・計画性が弱いと感じることもある。

例えば、入学を決めたものの入学金が払えないことなどがあり、経済的な支援をするだけではなく、こどもの頃から経済の仕組みを考える機会を作っていく必要があると考える。お金の使い方は家庭で決めるものであり、他人が口出しすることではないが、支援を受けるということは、そこには税金が投入されているということである。

税金を納めることと経済的支援の恩恵を受けることの仕組みについて、国民の理解がなかなか得られないことは、国の政策の問題なのかなとは思いますが、そのようなことも一緒に考えていけたらいいと思う。

【阿部 千春 委員】

こども園では、1号認定こどもと2号・3号認定こどもの両方をお預かりしているが、現在、共働き世帯が増えている中で、本園の園児数も年々増えている。1号認定こどもは、教育時間終了後に預かり保育で、17時までお預かりすることができるが、1回450円の費用がかかるため、こどものお迎えの際に、利用回数の話をしている家庭を見受けることもある。利用には費用が発生する中で、そのような会話が聞こえてしまうと、辛いとまでは言わないが、何かできることはないかを考えてしまう。

先ほど飯塚委員からもお話しがあったが、大きな市の計画に、こども園の立場として何ができるのかと思ったときに、資料7-1、Ⅱ. 調査結果（就学前児童）の43ページの「カ. 認定こども園（短時間利用）」の「悩み事などへの相談・対応」の項目における「やや不満」の割合が、他の項目に比べて大きいと思った。保護者の悩みごとには、担任、管理職、こども園こどもセンターの職員で相談に応じており、私がこども園に着任して数年しか経ってないが、相談数は大分増えてきたと感じている。相談しやすい環境であることは大変重要であり、前回調査時から変わった点として、公立施設にも保護者との連絡用アプリを導入した。アプリで呟いてももらえれば、こちらから声をかけやすくなり、導入前よりも相談回数が増えて、内容的にも把握できるようになってきている。

自分が勤める園の課題でもあるが、資料7-1、Ⅳ. 調査結果（高校生相当年齢

～29歳)の61ページ、「市の施策に望むこと」の中に「悩みを相談できる場や機会を増やす」がある。卒園してからの部分かもしれないが、38%と大きな割合であるため、こども園としては、その機会を小さい頃から大事に作っていきたい。

【こども政策課係長 石橋】

公立・私立に関わらず、こども園や保育所などでは、こどもの送迎時などに保護者の悩みに対して、丁寧にケアしていただいている。

今後については、(仮称)藤崎こども園ができることで、全中学校区において、こどもセンターが整備されることとなる。

現在、こどもセンターでは、親子に自由・気軽に来てもらい、子育て相談なども受けていただいているが、今後については、例えば、支援が必要なこどもの相談等についても、子育て支援課内のこども家庭センター等へ繋いでいく役割も担っていただくこととなる。この内容については、次期計画に落とし込んでいくとともに、実施に当たっては、教育・保育現場の先生方にも協力をいただきたいと考えている。

【大塚 朋子 委員】

資料7-1、Ⅱ. 調査結果(就学前児童)の41ページ、定期的に利用している教育・保育の事業のうち、「主に利用している事業の満足度」が、公立・民間別に、上下の図に記載されており、民間保育園としては、公立とほぼ同数値で満足していただけていることに安心した。

また、25ページに「(4) 事業の利用状況」として、1週間当たりの利用日数や1日当たりの利用時間数が記載されている。保育園における1日当たりの保育時間は、今ではもう9時間、10時間が当たり前となっていて、11時間となると7時に連れてきて18時までの利用となる。様々な政策の中において、保育の受け皿として、なるべく長時間預かることで保護者に還元したいとの思いはあるものの、特に0歳から2歳児がこれ程の長時間を保育園で過ごすことがこどもにとって本当に良いことなのかと感じる側面もある。

習志野市は、19時までの時間外保育料を保護者から徴収していないが、他市の保育園にこどもを通わせている保育士からは、他市では保育時間を1分でも過ぎたら延長料金が発生するなどの話を聞いている。

他市のように、例えば月に1回でも認定保育時間を過ぎたら月額何千円というように追加料金が発生すると、保護者はできるだけ時間内に迎えに来るようになる。

習志野市が、送迎時間を含めた利用時間を記載して利用承諾書を交付している中で、早く迎えに来ようとする保護者もいれば、保護者の中には、18時まででの利用申請であるのに、送迎時間を考慮しても遅い19時ぎりぎりで迎えに来て、目一杯預ける人もいる。

この保育時間を見ると、時間外保育料を徴収することで、こどもの保育時間が少しでも短くなり、家庭で過ごす時間が長くとれる家庭も出てくるのではと考えると

ころがあった。

【こども政策課長 奥山】

まず、「主に利用している事業の満足度」について、民間保育園には、大変尽力いただいております、感謝申し上げます。民間保育園はどうかという意見も一部では聞かれる中で、この結果から本市では当てはまらないことがわかる。

また時間外保育に係る延長保育料については、多様な保育サービスという中で、20時までの延長保育を実施する民間保育園においては、19時以降分の延長料金を徴収している。19時までの時間外保育料金を徴収することについては、働き方が多様化していることを含め、考えていきたい。

【上村 麻郁 会長】

それでは、たくさんの質問・意見があり上手くまとめきれないが、膨大な量のアンケート結果から、この短い時間でも多くの質問・意見が出たため、もう少し時間をかけて見てもらい、追加の質問・意見等があれば事務局に提出いただき、事務局は、次回会議に提示いただきたい。

また、飯塚委員、阿部委員の発言にもあったように、我々に何ができるのか。この会議体は、ただ計画を立てるだけの会議ではないため、その部分については、次期計画を作った後に、少し議論ができればと思っている。それぞれの立場があったり、親であったり、それぞれの思いがあるため、それらを持ち寄って何らかの形にできると、習志野市のためにも、そしてこどもたちのためにもなるのではないかと考える。

アンケートの実施方法等に対する意見等もあったので、今回の実施方法を検証し、次回以降の実施の際に、反映していただきたい。

(3) (仮称) 習志野市こども計画の施策体系(案)について

【事務局より、資料8に基づき説明】

【飯塚 源太 委員】

1点目、次期計画に大きく関わると思うが、人口推計はいつ実施するのか。

2点目、地域差はある程度考慮するべきと思うが、どの程度反映させるのか。

3点目、次期計画の計画期間は、令和7年度から令和11年度分までだが、掲載する事業は、その期間で完了するものという理解でよいのか。例えば、施設整備において、実際の整備には令和12年度までかかる事業は対象となるのか。それとも令和11年度中の着工であれば対象となるのか。

私立幼稚園・認定こども園協会代表として参加しているため、意見を述べさせて

いただくが、コロナ禍で色々なことが大きく変化し、少子化も加速している時期に、計画されていた施設整備をそのまま進めることに対して、どうだろうかと協会内で意見があった。その際も、協会としていろいろ考え、市とも協議した。

今回、令和7年度から令和11年度までの計画を策定した後、施設整備計画も作成されると思うが、5年先の未来までの計画を今決めて、どんな社会状況になろうとも、それに突き進むことには疑問がある。地域差も同様であるが、計画策定時に弾力性を織り込むことはできないのか。

令和5年度第2回会議で、計画と予算との兼ね合いについて質問したが、それと同様で、予算がつくと事業の硬直化も生まれてくるため、予算の確保や執行する際に、もっと機動的に変更できる仕組みが採れないのかと感じる。

【こども政策課長 奥山】

人口推計については、教育・保育の必要量の見込みに関する質問かと思うが、教育・保育の必要量の見込みについては、9月下旬に開催予定の子ども・子育て会議において、必要量の見込みと確保方策を提案したいと考えている。

また、施設整備に関して、現在取り組んでいる公立こども園の整備、公立保育所の私立化は、令和2年度から令和7年度を計画期間とする「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画 第3期計画」に基づき実施している。次の第4期計画は令和8年度からの計画となり、公立施設の整備や私立化については、そこで示していくこととなる。

こども計画の計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とし、教育・保育の必要量と確保方策についても、その5年間の内容をお示しする。

【こども政策課係長 石橋】

現在、本市の新たな基本構想を策定中であり、そのための人口推計を政策経営部で実施している。その人口推計は、今年度中の作成ということもあり、最終的にはその推計値を用いて、次期計画を策定することとなる。そのため、次期計画の素案と最終的な計画では、数値に差異が生じる可能性があり、9月下旬に予定する会議では、暫定値で提案させていただく。そのうえで、教育・保育の必要量の地域差に関しては、従来通り、中学校区ごとの需要を推計し、それに見合う提供体制を提案したいと考えている。

また、令和7年度から令和11年度のみを考えて計画を策定するのかについては、当然、人口推計はもっと先まで推計するため、それを見据えたうえで、この5年間でどうしていくのかを示す計画としていきたい。

最後に、計画の弾力性については、現在の子ども・子育て支援事業計画もそうであったように、次期計画も基本的には中間年度において、内容の見直しを行い、策定時から状況の乖離が生じている場合には、内容を修正するなどの柔軟な対応を考えている。

【上村 麻郁 会長】

今回、会議資料として提示されているのは施策体系案であり、この後、計画を立てていく中で、現計画をそのまま踏襲ではないと思うので、他の委員もぜひ多くの意見を述べて欲しい。

会議の予定時刻を過ぎているため、本日の会議はここまでとしたい。次回会議では詳細な資料が提示され再度協議することとなるが、現時点で各委員から意見がある場合は、いつまでに事務局に提出すればよいか。

【こども政策課係長 石橋】

本日欠席の委員に対しても意見照会を実施するため、本日の会議資料を見て意見等があれば、メールでも構わないので、できれば来週中に事務局に提出いただきたい。

【上村 麻郁 会長】

それでは、意見等がある場合は、来週中に提出いただきたい。

【横山 智子 委員】

今後、こどもの意見を聴く場を持たれると思うが、この次期計画に反映されるという理解でよいか。

【こども政策課長 奥山】

そのように考えている。

【上村 麻郁 会長】

次回会議では、計画案の詳細が提示され、議論の時間もとれると思うので、活発に意見をいただきたい。

事務局においては、本日欠席した委員の意見及び、出席委員の追加意見の集約をお願いします。

本日の協議事項は以上とする。

第5 その他（事務連絡等）

奥山こども政策課長より、令和6年度の年間スケジュール予定の連絡があった。